令和８年度和歌山県文化功労賞

つじもと　ゆういち
辻本　雄一

住　　所　和歌山県新宮市
出 身 地　和歌山県新宮市
生　　年　昭和 20 年

◎　業績及び経歴

昭和20年、新宮市に生まれる。昭和44年、早稲田大学文学部国文学科卒業。同年、和歌山県立高等学校教諭（国語科）に採用される。教諭として勤務する傍ら、『新宮市史 史料編』、『本宮町史』、『鵜殿村史』等の編纂委員を務めた。

平成元年に開館した新宮市立佐藤春夫記念館には開館の準備段階から関わり、養護学校校長を定年退職後から令和８年３月まで、約20年間にわたり館長を務めた。その間、佐藤春夫と芥川龍之介や谷崎潤一郎などの中央文壇との交流だけでなく、西村伊作、下村悦夫、奥栄一など、熊野の文化人との繋がりを取り上げた企画展や図録を多く手掛けた。また、文学講座やセミナー、シンポジウムでは講師を務めるなど、積極的な活動により、佐藤春夫記念館の知名度を高めた。

新宮市出身の作家、中上健次の研究にも実績があり、中上健次が創設した「熊野大学」には、発足前から参画し、運営委員を務めた。熊野新聞に「中上健次没後30年祈念　健次と、熊野と、点綴される風景・物語と、ゆかりの場所・人びと」を全50回にわたり連載した。

単著の著書では、『増補版 熊野・新宮の「大逆事件」前後』、『能火野人、佐藤春夫』、共著の著書では、『伊勢志摩と近代文学』、『海の熊野』、『〈異〉なる関西』、監修本として『佐藤春夫読本』等がある。

個人の執筆活動にとどまらず、講演などを通じて、熊野地方の近現代の文学や歴史を広く一般に周知し、理解を深めることに取り組んできた。さらに、地元の学校や市民グループからの要望に応じた出張授業や文学散歩のガイドを精力的に引き受けるなど、若い世代にも郷土の文学の魅力を伝えてきた。

文学資源の保存と活用に尽力し、多くの研究者やファンを熊野の地へ引き寄せただけでなく、地域全体の文化の底上げに長きにわたり貢献してきたその功績は誠に多大である。

■現　在
・公益財団法人佐藤春夫記念会理事
・中上健次顕彰委員会委員
・公益財団法人軽井沢美術文化学院理事

◆主な表彰歴等
平成27年　和歌山県知事表彰（文化振興）